

家保通信

Vol. 37 No. 11 3月号
東京都家畜保健衛生所



令和6年2月26日

かほクイズ

アフリカ豚熱の特定症状は？

- ①耳翼、下腹部、四肢等の紫斑
- ②発熱等の症状のある豚の増加
- ③複数の豚の突然死

答えは裏面

韓国でアフリカ豚熱（ASF）が続発！

令和6年1月以降、韓国の釜山広域市の野生イノシシで、アフリカ豚熱の感染が続いています。日本への航路がある港や空港付近でも感染が確認されており、国内への本病の侵入リスクが極めて高い状況です。アフリカ豚熱は致死率が高く、治療法やワクチンも存在しないため、国内への侵入を阻止することが重要です。海外から肉製品を絶対に持ち込まないといった水際対策のほか、農場では、飼養衛生管理基準の遵守による侵入防止対策をお願いします。詳細は別添資料をご確認ください。



農林水産省HP「アフリカ豚熱(ASF)について」:

<https://www.maff.go.jp/j/syoutan/douei/asf.html>



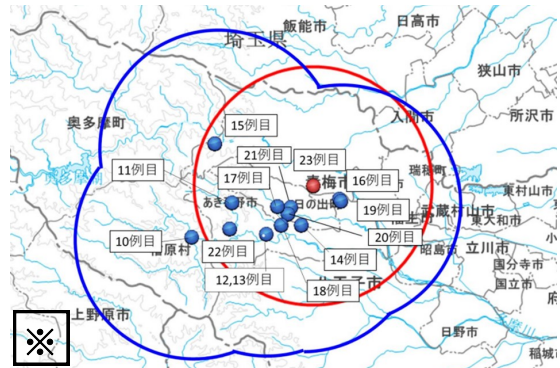
栃木県で豚熱発生！都内ではイノシシの豚熱陽性が続く

2月16日、栃木県栃木市で国内90例目の豚熱が発生（約1100頭）しました。また、都内では昨年8月以降、野生イノシシで豚熱の感染事例が続いています。飼養衛生管理基準の遵守や適切なワクチン接種をお願いします。

都内野生イノシシ豚熱陽性事例（令和6年1月27日以降）

| 例数 | 回収場所 | 発見日 | 発見時 |
|----|---------|-----------|-----|
| 22 | あきる野市養沢 | 令和6年1月28日 | 死亡 |
| 23 | 青梅市長淵 | 令和6年1月27日 | 捕獲 |

※ 赤丸:今回発見場所
赤丸円:発見場所から半径10km圏内
青丸:10例目(令和5年8月)以降発見場所
青丸円:10例目(令和5年8月)以降発見場所から半径10km圏内



高病原性鳥インフルエンザの発生が続いています！

2月6日に香川県三豊市で8例目（7万羽）、2月11日に鹿児島県南さつま市で9例目（5400羽）の高病原性鳥インフルエンザが発生しました。野鳥等では、全国で113例の感染が確認されています。引き続き、飼養衛生管理基準の遵守と健康観察を徹底し、異状がみられた場合は当所まで直ちに通報してください。通報が遅れた場合、周辺へのまん延リスクが高まるほか、殺処分された家きんの手当金が減額される場合もあります。詳細は別添資料をご確認ください。



ランピースキン病の国内侵入リスクが高まっています！

ランピースキン病は牛の伝染病で、届出伝染病に指定されています。これまで国内での発生はありませんが、令和元年の中国での発生以降、アジア各国で発生が続いています。昨年10月には、韓国で初めて本病の発生が確認されており、国内への侵入リスクが高い状況です。詳細は別添資料をご確認ください。



令和5年度牛のアルボウイルス感染症サーベイランスの結果

アルボウイルス感染症とは、ヌカカ等の吸血昆虫が媒介するウイルスによる感染症です。毎年6月～11月にかけて、発生状況の調査のためのサーベイランスを全国で実施しています。令和5年度の調査結果については、別添資料と以下の通りです。都内では陽転はありませんでした。ご協力ありがとうございました。




〇抗体検査（実施地域：アカバネ病は全国、チュウザン病・アイノウイルス感染症は西日本の23府県）

- ・アカバネ病、アイノウイルス感染症：抗体陽転無し
- ・チュウザン病：四国・九州地方の6県と沖縄県で**抗体陽転** ※四国・九州地方の陽転は、チュウザンウイルスと近縁のディアギュラウイルスの感染による抗体陽転の可能性が高い

〇遺伝子検査（実施地域：九州・沖縄地域の8県）


- ・旧シンプ血清群（アカバネウイルスやアイノウイルス等）：検出無し
- ・流行性出血病ウイルス（イバラキウイルスを含む）：九州地方の4県で**検出**
- ・ディアギュラウイルス：長崎県、宮崎県で**検出**
- ・チュウザンウイルス：沖縄県で**検出**
- ・ブルータングウイルス：長崎県で**検出**

今年度、全国でアカバネ病は抗体・遺伝子検査ともに陰性でしたが、昨年度の調査では抗体陽転がありました。繁殖牛には毎年アカバネ病のワクチン  を接種し、地域全体で抗体の保有率を上げることで、まん延を防止しましょう。

※今月号の別添資料は、畜種別でお送りしています。他畜種の資料を希望される方はご連絡ください。

クイズの答え：全て アフリカ豚熱の特定症状は、①耳翼、下腹部、四肢等に紫斑がある②同一の畜房内において、概ね1週間程度の期間に、次のいずれかの症状を示す豚が増加している（症状：40℃以上の発熱、元気消失、食欲減退、便秘、下痢、結膜炎、歩行困難、異常産、ひね豚など）③同一の畜舎内において、概ね1週間程度の期間に、複数の繁殖又は肥育豚が突然死する、などが挙げられます。症状では豚熱と見分けることは難しく、豚熱の特定症状もアフリカ豚熱と同一となっています。特定症状が見られた場合は、すぐに当所まで通報をお願いします。

発行日 令和6年2月26日

編集発行  東京都家畜保健衛生所

<http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/nourin/shoku/animal/kaho/>

〒190-0182 東京都西多摩郡日の出町
大字平井2759

TEL :042-588-7171

携帯：090-6941-4315(緊急用)

